

理事長退任に当たって

福島県ソフトテニス連盟 前理事長 川島登

平成7年「ふくしま国体」終了後、平成8年に理事長代行、2年後の平成10年に理事長に就任し22年が経ちました。理事長代行前は、橘賢会長、遠藤武理事長の元で事務局長を10年間務めましたので計32年間県連盟の仕事に携わって参りました。

ここまで長くこの仕事を続けさせていただきました事に、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

多くの人にお世話になって参りましたが、特に3名の方にこの場をお借りして御礼申し上げたいと思います。一人目は、私が理事長就任と同時に強化委員長に就任し、今回同時に退任することになりました吉田茂君です。彼のおかげで指導者講習会には素晴らしい講師陣を迎える事ができ、1年も切らすことなく講習会を続け、県内に多くの指導者を養成することが出来ました。また、「チームダンロップ」の立ち上げには、私と吉田茂君とダンロップの小牧信夫氏の3人で、(株)住友ゴム工業白河工場に赴き、当時の高見昌文工場長に直談判、福島県の女子選手の受け皿として実業団チームの結成をお願いし、現在のチームダンロップがスタートしました。

二人目は、事務局長の高橋強君です。平成13年から大会プログラムのソフト作りと、大会会場に赴いての成績入力、賞状作成、新聞社への報告等をじつにスムーズに行ってくれました。平成26年からは事務局長として、その重責を担い、理事会を含む各種会議対応などを安心して任せることができました。

三人目は、事務局の佐久間寿美子さんです。彼女はいつも私と机を挟み、話し合いながらありとあらゆる事柄を共に処理し、要となる会計業務と毎年3,000枚以上のゼッケン作成を行い、最強のスタッフとして、15年間努めてくれました。

この3人がいつもそばで、助けてくれたおかげで、これまでやってくることが出来ことに、心から感謝申し上げます。

22年間の間には、いろいろな出来事がありました。もっとも大きな出来事は、2011年の東日本大震災です。震災直後は、ただ呆然とするだけで何も手に付きませんでした。あるメーカーから「義援金を送金するので専用口座を作って下さい。」という電話で我に帰り、すぐに行動に移しました。全国から次々と送られてくる支援物資を、着のみ着のまま避難した人たちへ届けるために、郡山市のビッグパレット、相馬市、南相馬市、いわき市に隊列を組んで赴きました。ラケットやキャリーバックをうれしそう抱えた笑顔を思い出すと、今でも涙がこぼれます。この時ほどソフトテニス仲間の「絆」を感じたことはありません。支援物資、義援金を寄せていただいた全国の皆さんに心から感謝申し上げます。

福島県の原点は、今年で17回目を迎える市町村対抗にあると考えております。この大会をスタートするために大会3年前から始めた指導者講習会で、指導者を養成し、ジュニアチームが県内全域に立ち上がり、全国にも類を見ない強固で高度な組織が出来あがりました。

最後に、県内6地区、中学、高校、ジュニア、シニア、レディース、実業団の皆様には何をすることも前向きに、積極的にご協力いただきました。

皆様への感謝と共に、今後は新理事長の小野間幸一君に託します。